

山名	白馬岳 (長野県 北アルプス) 2,932m	山行名	例会山行
ルート	白山村⇒猿倉⇒白馬岳⇒柵池公園駅⇒柵池高原		
山行日	2018年 7月 26日～28日	天候	快晴から曇小雨風強
参加者	リーダー： 若林 サブリーダー 中田 (男性) 中田 竹原 平尾 木元 若林 5名 (女性) 上田 竹原 伊藤 吉澤 4名		

ルート概略図 	コースタイム 猿倉から自然園駅の工程表			
	地名	時：分	地名	時：分
柵池高原	発 5:30	白馬山荘	発 5:00	
7/27		7/28		
猿倉	着 6:00	白馬岳	着 5:16	
	発 6:05		発 5:20	
白馬尻小屋	着 7:15	小蓮華山	着 7:00	
	発 7:50		発 7:05	
岩室	着 11:30	白馬大池	着 8:55	
	発 12:00		発 8:58	
白馬山荘	着 15:03	自然園駅	着 13:50	

7/26 6時30分 am 2台の自家用車にて松井山手を出発早く涼しい高原に行きたい気持ちが馳せる。ネットワークの普及で、人気の山荘からは周囲の環境がリアルに情報収集が可能で白馬山荘(2,831m)より前日事前情報が入り、白馬山頂気温は 15℃ 快晴 連日京都の気温 38℃を超える毎日で 23℃の気温差は何と魅力的か更に気持ちが大雪渓に馳せる。白馬村到着後のトレッキングは、事前 参加者のアンケート結果に基き、本番に備えトレーニング兼ねて八方尾根を散策 リフトに乗るのを避けて(リフトに乗れる事が判らず)結果的にはウォーキング距離が延びる事に成ったが草花の干涉等で時間も要し、コンドラ最終便に辛うじて乗れる羽目に成る。翌日の本番に備えアルコールの援助を受けて早々に睡眠 27 日早朝(5:30)ジャンボタクシーにて宿泊地(柵池高原の宿 ひらた)をスタート 猿倉(1,264m)には 30分程で到着準備運動等を行い 6時過ぎ大雪渓⇒白馬山荘へ 日本三大雪渓でもあり個人的にも感動 各位アイゼン等に少し不慣れも有ったが、雪渓の感触を楽しみながら本日の目的地である白馬山荘(2,831m)に 15時過ぎ全員無事に到着 日本一の山荘だけ有り収容人数 1,500名/日も現在は 500名の対応が MAX で 300名でも対応に苦慮との事。

道中、白馬岳はお花の宝庫だけあり数多くの草花 珍しい草花(クルップ草)等を見ながらの登山で草花の鑑賞も楽しめた。夕刻には 15℃を体感しながら山荘から見る剣山、夕焼けが誠に神秘的であった。26日・27日の登山迄は天気恵まれたが、12号台風が接近している事もあり 28日の出発時間を当初の出発時間より 30分早め 5時00分に出発。天気予報では早朝から雨との報道も有ったが、台風は関東地方を避けてくれたお陰で早朝 白馬岳(2,932m)からの剣岳(昨年登頂)を目に焼き付ける事も出来た。小蓮華山(2,766m)を過ぎたあたりから小雨まじりの風が強くなり(風速 20m~30m)安全を最優先にして強行する事無く、風を避け待機しながらの山行になった。乗鞍岳(2,456m)を過ぎた所からの下山コースは 崖場あり又、三度のアイゼン使用のポイントがあり、予想以上に時間を要した。天候悪化により白馬大池(2,384m)にて癒し時間が作れなかったのは残念で有ったが 13.50 全員無事に柵池山荘(1,848m) 14:10分発の Gondola に乗り初日宿泊(ひらた旅館)のご厚意でシャワーにて汗流し昼食を済ませて各位 23時前には全員帰宅する事が出来た。 本当にお疲れ様でした。



夏山集中登山 白馬岳 感想

平尾 繁和

2002年の夏山集中登山（燕岳・常念岳）以来、実に十数年ぶりの北アルプス。再入門のつもりで参加しました。26・27日と天候に恵まれ、リーダーはじめ参加のみなさんのおかげで、初めての白馬大雪渓を一步一步踏みしめながら夏山をたっぷり味わうことができました。1日目の八方尾根の足慣らし散策、2日目ブナ林の猿倉山荘前からスタートしての白馬大雪渓、高山植物のお花畑が最盛期でした。八方尾根自然研究路の名札を記録したものを含め少なくとも60種を超える色とりどりの花を見ることができて満足です。特に初めて見たハッポウウスユキソウにヒナウスユキソウ、ウルップソウ、ミヤマヤハズハハコが印象的でした。白馬岳で見られなかったコマクサも、3日目強風でガスがかかり先を急ぐ道程でしたが、雷鳥坂を下った広々とした尾根の岩礫地で可憐に健気に咲いていて感激しました。ちなみに、展望がなく先を急いだ小蓮華山（2,766m）は新潟県の最高峰でした。（かつて家族で全都道府県最高峰めぐりなどしていたので名前に記憶がありました）台風12号接近のなか安全登山、安全運転で無事ほぼ予定どおり帰京でき大変よかったです。リーダーの若林さんケガをおして奮闘いただき本当にご苦労さまでした。そしてみなさん無事楽しく山行ができ本当にありがとうございました。1人では来れない、会の仲間と一緒にだからこそできたこの夏山を企画し準備いただいた小川さん、不参加は残念でしたがありがとうございました。
※白馬山荘で夕方、若林さんから夕陽がきれいと言われてもらいTシャツのままとびだして何枚か写真を撮りましたので花の写真等とあわせて紹介します。



八方池のほとり



白馬大雪渓



ハクサンイチゲ



シナノキンバイ



白馬山荘は目の前



白馬山荘からの夕景



白馬山頂で虹



ハッポウウスユキソウ



ウルップソウ

木元 隆司

初めて経験することの多い登山でした。まず、3000mクラスの登山が初めて、そして、山小屋泊も雪渓を歩くのも初めて、もちろんアイゼンも初めてで、おまけにストックとスパッツを使うのも初めてでした。全くの初心者です。

1日目 八方尾根トレッキング。

平地は晴れ間が多かったが、山の上は曇りで、八方池の水面に白馬三山が映る絶景の写真を撮れなかったのが少し残念。でも本番に向けて、いい足慣らしになった。

2日目 猿倉～大雪溪～白馬山荘

朝起きると快晴で、宿の窓から朝日に映える白馬岳が見え、大雪溪を歩く楽しみにわくわくする。大雪溪は想像より遥かに大きい。それでも、ここ数週間の猛暑により溶けて、例年より少し小さいとのこと。しかし、この暑さにもかかわらず、雪溪があちこちに残っているのに驚く。快晴だったのに突然ガスが出て、前後が全く見えなくなり、またすぐ晴れるのにも驚く。上昇気流に乗って雲が湧き立つのも興味深かった。雪溪を無事歩くことができ、白馬山荘に到着してほっとする。疲れたが想定内。少しだけ余裕あり、近かったのもうひと踏ん張り、白馬岳に登ってみる。

3日目 白馬岳～小蓮華山～白馬大池～乗鞍岳～杵池自然園

朝から雨予報のところ、曇りだったのでラッキーと思ったが、すぐに、台風並みの猛烈な風に小雨が混じる非常に厳しい天気になる。強風をまともに受け、吹き飛ばされそうになりながら稜線を歩く。さらに、ガレ場が延々とどこまでも続く予想以上に厳しいコースだ。天候が悪くて朝食の弁当を食べることができなく、おまけに前日の夕食が早かったため空腹だったこともあり、完全に疲れた。宿舎で、シャワーを浴び、遅い昼食をとって、少し回復する。多くの絶景、雄大さと美しさに感動しました。3000mに少しだけ足りないけど、ほぼ3000mの山、大雪溪等、初めてのことが多く、また稜線での猛烈な風、とてつもなく長いガレ場等の困難もあり、だからこそ、達成感もあり、思い出に残るいい経験になりました。みなさん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

伊藤典子

白馬岳の大雪溪とは、大きく広い万年雪の上を歩いて横切るイメージでしたが、3km以上の距離を標高差600mも登ることに驚きました。まるで雪山登山です。4本爪のアイゼンでは無理だと言われたことに納得です。私は8本爪のアイゼンを持って行きました。装着にかなり手間取って時間がかかり皆さんに迷惑を掛けてしまい申し訳なかったのですが、途中何度かの小雪溪を歩くたびに装着もスムーズになり、アイゼントレがばっちりできたのは収穫でした。楽しかった夏山登山に大満足です。

吉澤珠美

入会して初の夏山集中登山です。山小屋は、1泊だけでしたが、眠れなかったらどうしようと不安がありました。その心配は、杞憂に終わり短時間ながらも熟睡できました。大雪溪の眩しい白と青空のコントラストは今でも鮮明に浮かんできます。3日目の暴風の中、小蓮華山までの距離を長く感じたこと、寒かったことは一生忘れない程辛かったです。咲き誇る花々を励みに歩きました。花の名前を聞くたび丁寧に説明して下さいました。上田さん、ありがとうございました。皆さまのおかげで無事に終わりました。感謝致します。

憧れの大雪溪！

中田繁男

今年の夏山は白馬岳に決定した時から、大雪溪ルートを切望していましたので最終決定が確定して楽しみにしていました。台風はまだ太平洋上で影響なしとして実施。連日の快晴の中2日の猿倉から登山開始です。しばらく樹林帯を歩いていると白馬尻小屋が現れました。登山届を小屋の前で提出した。厳しい内容チェックで不備な部分はその場で訂正するなど地元の対応は真剣そのもの。小屋を後にしてしばらく登っていくと大雪溪末端に到着。「ようこそ大雪溪へ！」いよいよここから雪溪の始まります。転倒、滑落防止のため6本爪以上のアイゼンを装着します。夏場で慣れないアイゼン装着に苦戦しながらも全員で「標高差約600m、幅約100m、長さ約3500m」長丁場の登り一辺倒の雪溪に挑みます。快晴で日差しがあり暑い中、雪溪で冷やされた風が心地よい。雪溪上を滑り落ちてくる落石が無音で落ちてきます。雪溪が音を吸収するので不気味は感じに注意して登り始めた。ザクザクとアイゼンの噛む音が続く中、振り返ると下から私たちの後を登る人が数珠つなぎに見える。途中で何度か立ち休憩して下山する人と交錯していると、滑って降りる人も見られます。1時間位たった頃に上の山から白い雲が下りてきます。斜面を滑るように私たちは白いガスの中で

周囲が一変。足跡を辿るように雪渓を歩き続け雪上の歩行コースを進みついに大雪渓ケルンの末端に到着した。濃霧による道迷いもなく、落石もなく、心配していたクレバスの割れ目もなく無事に着いた。三大雪渓（白馬大雪渓、針ノ木雪渓、剣沢雪渓）の一つを踏破できました。思ったより比較的緩やかな傾斜の雪渓には危険な場所が少ないので参加しやすいでしょう。

竹原絹栄

白馬村は過去に3回訪れていました。宿舎のレストランからは雪渓の白馬岳が雄大な姿を見せていて、いつ見ても何度見ても、只々あこがれて眺めているだけの山でした。

今回の夏山登山が白馬岳と聞いたときから、ぜひ参加したいと思い、自分自身のプレッシャーをはね除けて臨みました。

1日目は八方池までの散策、2日目は猿倉から白馬山荘まで雪渓歩きなどのひたすら登りばかり。3日目は台風12号の行方を気にしながら、白馬岳山頂、小蓮華山山頂、白馬乗鞍岳山頂の3つの頂を経て梅池高原への長いコース。下りだからと気楽に考えていたからさあ大変。白馬大池では大きな岩場のアップダウンや、予定外の雪渓でアイゼンの付け外しが3回には参りました。無事に全行程をクリアできてうれしく思います。CL、SLさんにはお世話になりありがとうございました。

竹原順治

一日目の八方尾根は、昨年が続いてなので安心していたら、ゆっくりし過ぎて危うく最終のリフトに乗り遅れるところでした。油断大敵。二日目は初めての雪渓歩き。新調の6本爪アイゼンを装着して雪渓に一歩踏み出したのは、猿倉から登山道に入って2時間後の8時過ぎ。早朝5時半に宿舎を10人乗りタクシーで出発して猿倉に向かい、6時過ぎに準備運動をして登山口に入り、今から向かう白馬岳の写真を撮ったりしながら、大雪渓手前の白馬尻小屋到着は1時間後の7時過ぎ。ここで、朝食をとって8時前に大雪渓に向けて歩き出したのでした。約2時間の大雪渓は未知への挑戦気分であつという間に過ぎてしまった感じです。アイゼンを外して岩場を上り、11時半、昼食。昼食後、今度は雪渓横断。アイゼンの付け外しも慣れてくる。小休止を挟みながら今日の目的地、白馬山荘到着は予定通り3時過ぎ。荷物をほどいて一休みしてから、白馬岳山頂まで往復する。三日目は早朝5時出立。台風12号の影響で尾根歩きは強風の連続。小蓮華を経て白馬大池到着は9時前。余りの風の強さにここで足止めを危惧していたら、下界の状況は問題ないとの事。30分ほどの休憩で雨具を装着して乗鞍に向かう。ここからの下山道の岩場が大変。加えて、予定外のアイゼンの付け外しが3回も。これらの難所をなんとか乗り切りって12時半頃に木道に出た時は本当にほっとした。しかし、ここからの下りが長かった。約2時間を要してビジターセンター到着は2時半過ぎ。ロープウェイに乗った時は本当に一息ついた。三日目は台風との競争のような一日であったが、なんとか全員無事で山行を終えられたのが何よりであった。